

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講 師 鶴見大学歯学部
名誉教授 福島 俊士 先生
2. 演 題 延長ブリッジを考える 第2報
3. 日 時 平成28年6月30日(木)17:00~18:00
4. 場 所 7号館1階 歯学科第1講義室
5. 抄 録

延長ブリッジは、教科書的には「延長ブリッジはやむをえない場合を除いて極力避けたほうが無難である。」とされているが、社会保険では4⑤⑥、5⑥⑦、③④5などの小臼歯をポンティックとするもの、大臼歯では7欠損に対する半歯ほどのポンティックを有するブリッジを認めている。昨年は上下顎臼歯部の遠心ポンティック症例について検討したが、今年は上下顎臼歯部の近心ポンティック症例を中心に検討することにする。

連絡先: 三浦 宏之(岡田 大蔵)(摂食機能保存学分野 内線5521)